

No.	担当課	対象団体	開催日時・場所	参加人数	目指すべき将来像	将来像を実現するための取り組み (具体的な取り組み項目)	実現に向けた役割分担 (行政、地域、団体、企業がどのように関わりながら進めるのか)	目標とする指標・数値	その他	特記事項
1	地域振興課	ぎばって足沢70の会、えのみの会、よりやんせ金田一、浄門の里づくり協議会	7月2日(木) なにやーと2階会議室	6名	若者がUターンする、外部から移住してくるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・定住のための支援(空家バンク、住みやすい生活環境の整備) ・ふるさとに誇りを持ってもらうため、子供世代へ地元の魅力を伝える ・独自の魅力をアピール、触れる機会を作る(郷土料理、食材であれば産直など) ・働く場など収入源の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・空家バンク、トイレ等の生活環境整備 →情報提供、(市)、環境整備(地域) ・子供世代へ地元の魅力を伝える →地域で体験型授業等を提供、学校の総合学習の時間等を活用(地域) ・地域の魅力アピール →産直等を活用し発信、機会作りを行う(地域) ・収入源の確保 →産業振興、農業の機械化・省力化 	具体的な設定が困難	<ul style="list-style-type: none"> ・奥州街道や折爪岳の環境整備(担い手や維持費の確保が難しい) →国等の補助事業(市が紹介)、シルバー人材の活用 	
					<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティ ・集落の維持 ・コミュニティの結束の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が一体となるイベント等 ・地域内外の交流を深めるイベント ・若い世代のコミュニティ参加促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が一体となる、イベント ・地域内外の交流を深めるイベント →祭りや大会、勉強会を開催し、交流を促進する(市、地域) ・若い世代のコミュニティ参加促進 →子供に参加してほしい、若者の結婚、子育て支援(市) 	具体的な設定が困難		
2	地域振興課	二戸市国際交流協会	5月21日(木) 二戸ロイヤルパレス	12名	市内在住外国人が住みやすいまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語版生活情報の提供 ・市内在住外国人のニーズ調査 	<ul style="list-style-type: none"> (行政) 外国語版生活情報の提供 (企業) 就労外国人への情報提供 ニーズ調査 (地域) 市内在住外国人との交流 (団体) 企業と連携したニーズ調査 外国語版生活情報の作成 	具体的な設定が困難		
					活発な国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語を学習するためのセミナー開催 ・二戸市在住の外国語上級者の調査 ・外国人との交流会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> (行政) 取組の広報活動 二戸市在住の外国語上級者の調査 (企業) 交流会への参加 (地域) 交流会への参加 (団体) 交流会の企画等 	具体的な設定が困難		
3	防災対策室	二戸市消防団	6月30日(火) 二戸消防署2階会議室	18名	安心して暮らせる。住みやすい二戸。	<p>【消防団組織の充実】 地域の安心・安全な生活を維持するため、消防団組織の充実に努めます。</p> <p>(1)消防団員の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防団への理解促進のための広報活動 ・消防団協力事業所制度の活用 ・入団要件の緩和などによる加入促進 <p>(2)地域との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事等への参加、協力。 	<p>(1)消防団員の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報紙等で消防団活動を紹介【市】 ・消防団協力事業所制度の整備【企業・市】 ・在勤者が入団できるよう入団要件を緩和【消防団・市】 ・機能別消防団員制度の検討【消防団・市】 <p>(2)地域との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会や自主防災組織主催の防災訓練への参加及び地域行事への協力【消防団・地域】 	<p>(1)消防団員の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防団員数 H27 818人 ⇒ 30年後 650人 <p>(2)地域との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な数値目標は設定困難。 	<p>〈その他の意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防団員でも独身が多いため、結婚対策が必要。 ・市外への人口流出を抑制するため、働く場所の確保が必要。 	
4	税務課	二戸市納税貯蓄組合連合会	6月29日(月) 二戸市役所別館2階会議室	12名	納税組合については、今後組合の維持が困難となるのが想定されるため、補助金等は町内会等の地域活動団体補助金との統合を検討する。	<p>組合員の口座振替の利用を促進し、税収を確保するとともに、組合の事務負担軽減を図る。</p> <p>組合の活動について、地域活動への移行を検討する。</p> <p>組合に対する補助金を地域活動にも対応できるよう検討し(使途等)、使いやすいものとする。</p>	<p>行政：地域活動への取組みを支援(補助金の交付等)</p> <p>団体：組合と町内会等との統合を検討する必要がある。</p>	特に設定しない。		

No.	担当課	対象団体	開催日時・場所	参加人数	目指すべき将来像	将来像を実現するための取り組み (具体的な取り組み項目)	実現に向けた役割分担 (行政、地域、団体、企業がどのように関わりながら進めるのか)	目標とする指標・数値	その他	特記事項
5	生活環境課	にのへエコネット	7月1日(水) 市役所 1階 会議室	6名	・循環型社会の形成	・生ごみだけでなく、伐採後の草木の堆肥化などの対策 ・過剰生産作物の再生利用(野菜からチョークなど)	・行政:生ごみ等収集にかかる体系の構築。また、堆肥化処理施設の整備 ・行政:過剰生産作物の有無、品目、数量等の確認。対応可能な企業の模索	・一人当たりゴミ排出量の削減 ・廃食用油回収量による、CO2削減数値など	・大人になるとどうしても予算が絡んだ意見に偏ってしまう。小中学校で「二戸市の将来像」なる作文を書いてもらったほうが、いろいろな意見が出るのではないかと。 ・若い人の活躍をもっと見えるようにしてはどうか。自営業の人は早めに経営権を息子に譲るとか、町内会などの会長も、30代くらいの若い人にやってもらうとか、トップを若い人にすることで、周りにも若い人が集まるのではないかと。	
					・雇用の場の創出	・廃食用油回収量の拡大、及びBDF精製プラントの拡大。BDF利用の拡大	・企業:BDF精製プラントの拡大により雇用の場の創出 ・企業及び行政:回収量の検討及びBDF利用可能企業との調整(BDFは軽油の代替だけでなく重油の代替としても利用可能)	・回収場所の増設 ・BDF利用可能企業の開拓		
					・観光地を活用した交流人口の増	・観光地の活性化、特に金田一温泉郷、折爪岳の観光地化	・行政:折爪岳観光地化、施設老朽化の対策。ヒメホタル鑑賞会だけでなく、6月に発生する雲海の鑑賞ツアーなどイベントの実施やロープウェイなどの設備の増設	・年に複数回のイベントの開催 ・既存のイベントに併せた新規イベントの開催	・他市町村では、「子ども議会」なるものがある。二戸市でも開催したほうがいいのではないかと。	
6	生活環境課	二戸市環境衛生組合	5月14日(木) 市役所 1階 会議室	15名	・循環型社会の形成	・生ごみの堆肥化などの対策 ・ごみ焼却熱の利用 ・焼却灰をセメントに混ぜるなど、焼却灰の利用	・行政:生ごみ収集にかかる体系の構築、生ごみ処理施設の整備 ・行政及び企業:ゴミ焼却熱利用施設の整備、焼却熱利用方法の検討 ・企業:焼却灰再利用可能資材等及び取り扱い企業の模索	・一人当たりゴミ排出量の削減 ・最終処分場放流水水質など	・全部二戸市でやるのではなく、近隣市町村と、役割分担が必要なのではないかと。	
7	生活環境課	二戸広域清掃業協同組合	7月3日(金) 市役所 1階 会議室	12名	・循環型社会の形成	・人口減に伴い、「ごみの収集」から資源物の収集にシフトチェンジ	・行政:ごみ減量化を推進していくが、一方で収集業者の仕事の減に繋がる。古紙だけでなく他の不燃資源ごみ等の収集及び売却を行い、より一層のリサイクルを推進していく。	・古紙以外の資源ごみ等の収集及び売却 ・一人当たりのゴミ排出量での具体的な数値設定	・生ごみの堆肥化は、出口確保しなければ現実味がない。 ・既存遊休施設の利活用(十字架・カウネル等) ・ゴミの減量化及び一番効果的なのは有料化(市民の理解が得られれば)	
					・雇用の場の創出	・RSを活用した雇用の場の創出 ・人の目につきやすい場所へのRSの設置	・行政:RSの適切な活用を推進するため、日中に管理員を常駐させ、雇用の場(シルバー)を提供。 ・スーパー等:「キロ当たり何円」というポイント制にして商品券などを配布。 ・交通、防犯の安全面を通じた適切なRS設置場所の確保	・RSの増設(現在10)	・人目につかないRSには、可燃ごみが捨てられている。	
					・中心市街地の環境美化	・中心市街地町内会での集積ボックスの活用推進	・行政:中心市街地の集積所設置が進まない町内会に対し、集積ボックスを使用してもらい、景観、衛生面から見てメリットを感じていただけるよう試行期間を設けて設置する。 ・町内会:各班ごとに場所を決め、移動可能なボックスを1週間または1か月単位で利用してもらう。 ・収集業者:収集場所集約化による市への情報提供	・中心市街地 全町内会の集積ボックス活用	・プレ団体、団体に向けた環境整備の急務 ・近隣の自治体には、悪い例として二戸のようなところはない	

No.	担当課	対象団体	開催日時・場所	参加人数	目指すべき将来像	将来像を実現するための取り組み (具体的な取り組み項目)	実現に向けた役割分担 (行政、地域、団体、企業がどのように関わりながら進めるのか)	目標とする指標・数値	その他	特記事項
8	生活環境課	二戸地方交通安全母の会	7月9日(木) 市役所 1階会議室	7名	・交通死亡事故ゼロ	・交通安全意識の高揚 ・通学路の安全確保(除雪対策、スクールバス等) ・安全・安価な公共交通機関の確保(巡回バス等)	・行政:交通安全意識啓発の推進、交通安全教室の開催、スクールバス・巡回バス等公共交通機関の確保。 ・地域:街頭指導の強化	・交通安全教室(小中学生一人当たりの年間受講回数など)	・防災無線を浄法寺町のように各家庭に受信機をつけてほしい。 ・福高浄法寺校の閉校後、漆の学校にはどうか。 ・防災のため、砂防ダムや川の氾濫など危険箇所の見直し。 ・交通安全施設の整備(通学路全てに歩道を設置してはどうか)	
9	生活環境課	二戸市防犯連合会	6月24日(水) 市役所 2階会議室	9名	・犯罪が無い二戸市	・地域防犯組織の強化 ・防犯パトロール体制強化 ・防犯意識啓発活動の推進 ・防犯カメラの設置	・行政:防犯意識啓発の推進、防犯カメラの設置 ・地域:地域防犯組織の人材確保と防犯パトロールの強化	・各地区の防犯パトロールの回数 ・かぎかけ推進地区の数	・人材の活用:県職員、教職員、市職員の定年退職者などを地域防犯活動の担い手として活用していく	
10	福祉課	社会福祉法人共生会	6月24日(水) 二戸市総合福祉センター	2名	30年後を考えるには無理がある	・社会福祉法人の充実・統廃合 ・過疎化、消滅集落への対策 ・結婚、若者の出会いの場を設ける ・子供の出生を促すため保育料軽減	(法人) ・行政と連携し、看護及び介護職員の育成 (行政) ・看護及び介護職員の人材不足解消 ・情報提供	具体的な指標・数値の設定は困難		
11	福祉課	社会福祉法人桂泉会	6月24日(水) 二戸市総合福祉センター	2名	めまぐるしく変化する現代で30年後はわからない	・健康寿命を延ばす ・生活習慣病予防 ・交通の利便性を生かし首都圏と交流、退職者の移住受入れ ・二戸の気候、風土を生かした観光開発	(行政) ・健康寿命を延ばすための対策、生活習慣病の予防 ・情報提供	具体的な指標・数値の設定は困難		
12	福祉課	社会福祉法人麗沢会	6月24日(水) 二戸市総合福祉センター	1名	高齢者がすこやかに暮らせるまち	・高齢者の地域包括ケアの構築 ・認知症の方への支援 ・介護予防の充実 ・高齢者の多様な住まい方の支援	(法人) ・各種サービスの提供 (地域) ・高齢者見守り (行政) ・法人への支援 ・情報提供	・高齢者に占める健康老人の増(具体的な数値の設定は困難)		
13	福祉課	社会福祉法人いっつ星会	6月24日(水) 二戸市総合福祉センター	1名	高齢者が生き生きと暮らせる二戸市	・健康寿命の取り組み ・退職後も教養(今日・用)と教育(今日・行く)の拠点づくり ・Uターン、Iターンについて ・カーリング場の整備(冬場に高齢者が楽しめるスポーツ)	(企業) ・高齢者のボランティア活動や趣味活動などのメニュー開発 (行政) ・Uターン、Iターン者の呼び込み ・カーリング場の整備	具体的な指標・数値の提示はなかった	・若い人の職場づくりや子育て施策が先になりがちだが、逆に高齢者を大事にしそこに力を入れ新たな価値を生むことによりシルバー世代が生き生きと暮らし老後は二戸市に行きたいと思われるイメージにすることで、そこに付随する新しい仕事も生まれ、若い人の仕事も発生すると考える。	
14	福祉課	二戸市老人クラブ連合会	6月30日(火) 二戸市総合福祉センター	28名	楽しく豊かに暮らせるまち	・人材育成、リーダーづくり ・結婚適齢期のパートナーづくり ・子育て支援(託児所の運営) ・道路や下水などの基盤整備 ・農業は手間のかかる農作物を栽培(大型化はダメ) ・空き家を活用し、I・Uターン者の呼び込み ・農業のための基盤整備 ・市立看護学校の設置 ・認知症対策	(市老連) ・市老連会員のリーダーづくり ・子育て支援として、例えば市老連による託児所の運営 (地域) ・認知症患者や高齢者の見守り (行政) ・基盤整備 ・情報提供	具体的な指標・数値の設定は困難		

No.	担当課	対象団体	開催日時・場所	参加人数	目指すべき将来像	将来像を実現するための取り組み (具体的な取り組み項目)	実現に向けた役割分担 (行政、地域、団体、企業がどのように関わりながら進めるのか)	目標とする指標・数値	その他	特記事項
15	福祉課	二戸市社会福祉協議会	6月24日(水) 二戸市総合福祉センター	2名	元気な高齢者が生き生き生活しているまち	・高齢者が社会とのつながりを維持できる仕組みづくり【今後10年間で取り組むこと】 ・気軽に集まれる場所を各地区に設置(公民館、空家の活用)【今後10年間で取り組むこと】 ・公園に健康遊具があり、いつでも利用できることで筋力向上が図られる【今後10年間で取り組むこと】	(行政) ・高齢者と社会の繋がりを維持する仕組みづくり ・健康遊具の整備 (地域、行政) ・公民館、空き家の整備	具体的な指標・数値の設定は困難		
					障害がある者及び生活弱者(障がい者として認定されないまでもそれに近い者が多い)が安心して就労できる場所があり自立した生活ができるまち	・障がい者及び生活弱者の就労場所の確保【今後5年間で取り組むこと】 ・交通手段が整備されることで幅広い活動が継続できる【今後10年間で取り組むこと】	(行政、企業) ・障がい者等の就労場所設置	具体的な指標・数値の設定は困難		
					住民同士の見守りにより安心して地域で暮らすことができるまち	・地域の見守りの充実(安心ネット)【今後5年間で取り組むこと】 ・小中学生の福祉教育(見守り、地域でのコミュニケーション、三世代交流)【今後10年間で取り組むこと】	(地域) ・地域の老人等見守り (行政、学校) ・小中学生への福祉教育	具体的な指標・数値の設定は困難		
16	福祉課	NPO法人 カンオペア障連	6月24日(水) 二戸市総合福祉センター	2名	障害者も健常者も一緒に暮らせるまち	・障害者の割合の把握 ・障害者の働く場、収入の確保 ・障害者の働く場所をサポートする仕組みの確立	(法人) ・障害者が働く場所を確保 (行政) ・障害者の割合の把握 ・情報提供 (地域、行政) ・障害者が働く場所を	具体的な指標・数値の設定は困難		
17	健康推進課	二戸市健康づくり推進協議会	5月25日(木) 二戸市総合福祉センター研修室	18名	【健康寿命の延伸を目標とし健康で元気に暮らせるまち】 ○病気になった方もこれまでどおり普段の生活ができるような(安心して)暮らせるようなまちづくりが必要。 (二戸医師会 菅原委員) ○就職先が地元がない。できるだけ地元の人を採用し人口を維持していく。 計画するうえで、社会保障費など全体的なことをバランスよく考えなければならない。社会保障費の無駄使いを見直していくことが必要。 (県薬剤師会二戸支部 金沢委員)	○市の役割は市民の期待や思いをどう発掘していくかということ。要望、要求は住民でも気がつかないことが多い。 市の将来像の具体的なイメージをいかにうまく市民に伝えるかがポイントである。市がこのような未来像を描いていると市民に投げかけてもいいと思う。 (二戸保健所 鈴木委員) ○30年後にいない可能性の高い方に30年後という厳しいお題を出した根拠が理解できなかった。壮大なテーマは現実問題をうやむやにしてしまうことがある。人口が減ってしまうので、できることはやる、やれないことはやれないと線引きを改めてする必要があると思う。 5年間でやることの最優先は人口の減少を防ぐことが優先事項だと思う。 増やすこと、減らさないことを推進すべき。 近隣市町村に子育て世代や様々な人口を奪われている。軽米は18歳までの医療費無償化、一戸は保育料無料など近隣は二戸の人口を取りに来ているので、その対策を行ってほしい。子育て世代を優遇するような政策を行わないと、必死になってきている近隣市町村にやられてしまう。 市職員は必ず何かの市民団体に所属することをお勧めする。 以前に市が開催した職員向けセミナーで先生が言っていた。 皆さんも忙しいと思うが、同じ二戸市民として一緒に協働して町を作り上げたい。 (カンオペア青年会議所)	○市役所は市民の期待や思いをどう発掘していくかということ。要望、要求は住民でも気がつかないことが多い。 市の将来像の具体的なイメージをいかにうまく市民に伝えるかがポイントである。市がこのような未来像を描いていると市民に投げかけてもいいと思う。 (二戸保健所 鈴木委員) ○30年後にいない可能性の高い方に30年後という厳しいお題を出した根拠が理解できなかった。壮大なテーマは現実問題をうやむやにしてしまうことがある。人口が減ってしまうので、できることはやる、やれないことはやれないと線引きを改めてする必要があると思う。 5年間でやることの最優先は人口の減少を防ぐことが優先事項だと思う。 増やすこと、減らさないことを推進すべき。 近隣市町村に子育て世代や様々な人口を奪われている。軽米は18歳までの医療費無償化、一戸は保育料無料など近隣は二戸の人口を取りに来ているので、その対策を行ってほしい。子育て世代を優遇するような政策を行わないと、必死になってきている近隣市町村にやられてしまう。 市職員は必ず何かの市民団体に所属することをお勧めする。 以前に市が開催した職員向けセミナーで先生が言っていた。 皆さんも忙しいと思うが、同じ二戸市民として一緒に協働して町を作り上げたい。 (カンオペア青年会議所)	○今後高齢者が増えるに伴い、老老介護も増え負担も大きくなる。体の健康、心の健康も大きな課題になる。 これまでの10カ年計画の結果の検証が必要ではないか。可能であれば資料を添付してほしい。それによって前はどうか、次はどうか、あるいはいいなど案や意見が出てくるのではないかと。 少なくとも今の人口は保っていかなければならない。事業をやる上でコストが高くなる。それを踏まえ、きちんと見据えた上で意見を出していかなければならない。 (二戸市老人クラブ連合会 東委員) ○介護保険、医療保険など市だけではなく広域で考えていかなければならない。 (二戸歯科医師会 沢藤委員) ○人口減少に対し過剰に事業をやる必要はないが、現実に即した規模の計画を立てることが必要。 雇用は必要。 (一戸病院 小井田委員) ○特定健診のことという、ある程度の年齢になってくると受けられない人が出てくるので、受診率は下がってしまうが、病院に行ってるので受けたくないという人もいる。受診率だけにとらわれないで市民がどれくらい健康でいるかが分かれればいいと思う。 (二戸市保健委員協議会 田口委員)	健康寿命の延伸を図ることを目的とし、市の健康づくりをテーマに意見交換会を行った。	

No.	担当課	対象団体	開催日時・場所	参加人数	目指すべき将来像	将来像を実現するための取り組み (具体的な取り組み項目)	実現に向けた役割分担 (行政、地域、団体、企業がどのように関わりながら進めるのか)	目標とする指標・数値	その他	特記事項
18	健康推進課	二戸歯科医師会	6月16日(火) 二戸市総合福祉センター研修室	8名	【健康寿命の延伸を目標とし健康で元気に暮らせるまち】 ○計画ができれば、あとは事業を進めるだけというわけではなく、例えば、節目歯科健診の受診率があがらないなら、早めに住民とコンタクトをとって、住民に意識改革の機会をもつ等という対策が大切。 ○若い人たちが二戸市にもどってくるよう雇用を増やすこと。仕事があれば若者が増える。第1次産業に力をいれるべきではと思う。 ○(財政面)一番かかるのは医療費だと思つて、医療費を抑えるため予防に力を入れることが大切。 ○一気に人口を増やすのは無理である。子どもを生むことが可能な状況の人達、若年者に対策をしていくことが大切である。 ○日本の学校保健はWHOから高く評価されている。できれば、二戸の健康21などお知らせする際に日本のレベルと二戸のレベルを比べてお知らせすると親を説得する材料になるのでは。 ○健康づくりの面で二戸は冬場の運動ができる場が少ない。大人と子どもと一緒に遊べる機会があればと思う。 ○高齢者が不安に思うことは、医療、介護である。一番いいのは介護給付を受けていない元気で健康な高齢者を増やすこと。介護予防に絡めた高齢者の健診を入れていただきたい。国のほうで基本チェックが変わったみたいなので二戸の独自の方式でやっていただきたい。 ○医療費の補助は必要。 ○農業の話して二戸、岩手はナンバーワンはあるが、オンリーワンがないと思う。食の匠山本謙治さんは稲庭で牛を飼っている。育てて食べるとこまでやってツアーもやっている。そういったメディアも必要かと思う。 ○親は子どもに幸せになってほしいとは思いますが二戸で幸せになってほしいとは思えない。二戸で幸せになりたいという人を増やすといいのでは。	○高齢者が増えてくるので、例えば在宅医療ではいろいろな職種の人たちとの連携が必要。今のうちに在宅医療の連携をつくっておければ歯科医師会としても助かる。 ○人口を減らさない対策でいえば、結局、人が減る理由は、東京など都会に人をとられるからである。その都会と地方の綱引きに勝つためには保健事業でいえば保険料を減らすとか、健診料を減らすとか、行政で対策があれば暮らしやすい町として人が増える。実際に人口が増えた地方がある。 ○生まれてから死ぬまで切れ目無い歯科保健サービスが必要。学校歯科保健、親が子どもの歯にしっかり関心を持つこと。また、職場でも歯科に関心を持つことが必要。職場で歯科健診ができればいいと思う。会社が歯科健診費用を負担するのがつらいとなれば行政との兼ね合いになるが…。それでも虫歯になって寝たきりになった人がいるのであればやっぱり在宅医療をやっていかねばならない。歯科医師会はノウハウ、テクニックを持っているので対応できる。 行政は独居をどこまで把握しているか。それが、できると安心して暮らせる町になるのではないかと思う。 ○暮らしやすい町というのをPRしていくこと。子ども達に二戸の魅力伝えていく。		○今大切なのは口腔機能を保つこと。 ○幅広い活躍ができるので、新しい教育を受けた歯科衛生士を市の職員で入れてほしい。 ○国保資格証明書は廃止すべきだと思う。保険料払う意識がないので、自費でいいと思う。 ○高齢者が二戸にいたいという町づくりをすればおのずと子どもがふえるのではないか。 ○ふるさと納税で二戸は魅力は無い。あれを充実させれば二戸のPRになると思う。 ○昔は衣食住貧しかったが夢があった。あの時代を思い出せばヒントがあるのでは。 ○田舎でも雑穀なりおもてなしなりで人が集めることのできるのひとつのヒントになるのでは。	健康寿命の延伸を図ることを目的とし、市の健康づくりをテーマに意見交換会を行った。	
19	健康推進課	二戸市傾聴ボランティア 笑・笑・笑	6月5日(金) 二戸市総合福祉センター集会室	8名	【健康寿命の延伸を目標とし健康で元気に暮らせるまち】(自殺者をださない) ○隣、近所付き合いがなくなってきているため、元気なお年寄りがいろいろな行事にでてきて、子ども達、子を持つ親達に顔を覚えてもらったほうがいい。近所から始まるコミュニケーションを大事にする。 ○子ども達に近所であった人誰にでもあいさつするよう徹底してほしいと思う。そうすればお年よりも若い人に話しかけやすいのではないか。 ○5年後、10年後、30年度を見据えて傾聴ボランティアをあちこちに作るというのではなくコミュニケーションを重視していくことがいい。コミュニケーションが増えることが結局は傾聴ボランティアの活動と同じことである。 ○市の町中になるにつれて公民館など少なくなってくる。地域の活動の場が少なくなる。今増えてきている空家、空き店舗を貸してもらえれば、利用するのもいいかもしれない。	【生産人口を逆転させないための課題】 ○生産人口を支える子供の健全な育成と出生率の向上 ～安心して結婚・子育てのできる社会づくり～ ・夫婦就業への近隣宅児の仕組みができないか ・宅児の経済的負担の軽減ができないか ・子供養育費の負担軽減ができないか ・子供保有世帯への住居費軽減ができないか ・子供保有世帯への税負担軽減ができないか ・子供保有世帯及び子供本人の年金負担軽減ができないか ・地元職業訓練施設を活用して地元就業率の向上ができないか ○生産人口から自殺者を出さない ～生産人口の自殺予備軍は、手職(技術)がなく職場で辛い思いや病気になりがちではないか(気力喪失)～ ・ハローワーク等の関係者が情報を共有化し、職業訓練の仕組みができないか ・生産人口者を一人にしないための、パートナーづくりができないか ・病院や介護施設等と情報を共有化し、早期に予備軍を発見する仕組みづくりができないか ・相談対応組織を濃密化するため、隣り組みづくりができないか		○今までよかったことがすたれてきている。良かったものは何だと考えると隣、近所付き合いではないかを感じる。例えば、高齢で買い物に行けないときなど、近所から恥ずかしく考えずに借りたりできる。しかし、いろいろな事件等があるため、隣、近所でも用心している。隣、近所付き合いがなくなってきたため、知らない人が多くなっている。	健康寿命の延伸を図ることを目的とし、市の健康づくりをテーマに意見交換会を行った。	

No.	担当課	対象団体	開催日時・場所	参加人数	目指すべき将来像	将来像を実現するための取り組み (具体的な取り組み項目)	実現に向けた役割分担 (行政、地域、団体、企業がどのように関わりながら進めるのか)	目標とする指標・数値	その他	特記事項
20	子育て支援企画課	二戸市子ども・子育て会議	7月28日(火) 二戸市総合福祉センター	11名	・子どもは二戸の宝	目標をしっかり定めて関係機関が連携する	【行政】 ・子育てに金がかからないよう支援する。 ・子育て関連に予算を重点的に配分する。 【企業】 ・子どもがいることが不利にならないようにする。 【団体】 ・他の市町村から転入した人が孤立しないようサポートする場を提供する ・子育てサークルを充実させる ・PTA活動を充実させる 【地域】 ・子ども会を充実させる 【その他】 ・条例等でゲームを禁止する	子どもの人数 ※最低でも、現在の子ども数を維持する	・2人以上生んでもらう ・子育て世帯を誘致する ・婚活サポート ・子育てサークルを充実させ、市外から嫁いだひとが孤立しないようにする ・大学への合宿場所の提供	・とにかく実行しないと始まらない ・外部へのアピールが重要 ・知恵を出しつつ体も動かす
					・子どもが育つまち ・子育て世帯にやさしいまち	住民一人ひとりができることを出し合い、若者から高齢者、行政、企業、団体、地域それぞれの立場で取り組むことにより「子どもが育つまち」「子育て世帯にやさしいまち」を目指す	【行政】 ・「自然」が豊かであることをPRする ・子育て、教育に予算を重点的に配分する 【企業】 ・育児に配慮した就業環境を整備する 【団体】 ・生徒会、趣味の会等小さなばでもいいから「繋がれる場」を 【地域】 ・子育て支援 【その他】 ・枠にとらわれることなく、住民一人ひとりができることを出し合う	Uターン率	・コンパクトなコミュニティを目指してはどうか ・Uターン、Iターンしたいひとに支援をしてはどうか ・子ども会の在り方を検討してはどうか(小学生だけでなく、就学前～中学生まで)	

No.	担当課	対象団体	開催日時・場所	参加人数	目指すべき将来像	将来像を実現するための取り組み (具体的な取り組み項目)	実現に向けた役割分担 (行政、地域、団体、企業がどのように関わりながら進めるのか)	目標とする指標・数値	その他	特記事項
21	産業振興部	確認表のとおり	第1回:平成27年6月17日(水) 第2回:平成27年6月24日(水) 県合同庁舎 二戸市広域観光物産センターなやーと	第1回: 43名 第2回: 39名	二戸が有する地域のモノ(宝)を次代に継承する仕組みづくりを確立するとともに、地場産業(農・商・工・福・教等)を「融合」させることにより、個々の弱点を補いメリットを享受させる地域の「バリューチェーン」の構築を図ることにより、「豊かさ」と「魅力」にあふれ市民が“自信”、“自慢”、“誇り”を持てるふるさとの創造をめざします	I 後継者や起業家への支援 1. 起業・新規就農受入れ体制整備 (1) 起業・新規就農支援システムの構築 (農林業、漆産業の研修・就業、起業研修・支援) (2) 産学官連携による教育体制の充実 2. 経営安定・所得向上対策 (1) 農商工連携、6次産業化等の経営多角化の推進 (新商品開発、体験交流、ブランド化等) (2) 実需に合わせた流通・販売対策 (3) 輸出対応の強化	・起業・新規就農実践サポート: 商工会、職業訓練協会、JA、森組、漆組、県関係機関 ・各種助成やアドバイザー派遣等 中小企業団体中央会、産業振興センター、農業公社 ・教育サポート、共同プロジェクト展開 大学(県内外) ・資金・融資支援 金融機関等	○新規起業件数(多角化事業部門創設も含む) ○件 ○新規就農者数 ○人/年 ○新規就農定着率 ○%(※5年後の定着率) ○新規就農認定者数 ○人/年 ○経営革新計画等事業計画認定件数 ○件	○「経営安定・所得向上対策」に関して、出産・育児、子育て支援に対する意見・提案多数	
					II 地域のモノ(宝)を知る教育の推進 1. 地域のモノ(宝)の認知向上対策 (1) 児童・生徒若者等への教育・伝承活動の推進 (2) 情報発信・周知PR対策(市内、市外・県外・外国) 2. 継承に向けた人材育成の体制整備 (1) 人材育成の体制整備(継承者(担い手)、伝道者(指導者)) (2) 「宝(人財)」の活用推進 3. 地域のモノ(宝)のビジネス化 (1) 観光資源化の推進 (2) ブランド化の推進(ストーリー化) (3) 広報・PR活動の強化	・教育サポート: 小中学校、教育委員会、各種継承団体等 ・情報発信・PR等: 観光協会、FMカンオペア、旅行運輸事業者、マスコミ、県関係機関、農業公社 ・継承サポート: 各種継承団体、シルバー人材センター、大学 ・ビジネス化サポート: 観光協会、商工会、旅行運輸事業者、食品関連企業 団体、小売・流通企業、中小企業団体中央会、産業振興センター、農業公社 ・資金・融資支援 金融機関等	○各種継承団体等の構成員数: 人 ○うち小中学生の参加者数: 人 ○ブランド特産品() の販売額 百万円 ○観光客数 人/年 ○宿泊観光客数 人/年	○交通対策、交通インフラ整備について意見・提案多数 ○義務教育課程における「地元学」のカリキュラム化等の提案多数		
					III 地場産業等への支援強化と生産基盤整備の推進 1. 人材の育成・確保体制づくり (1) 起業・新規就農支援システムの構築 [再掲] (農林業、漆産業の研修・就業、起業研修・支援) [再掲] (2) 周年雇用可能な経営体の育成・確保(農林業、漆産業) (経営規模拡大・多角化、法人化、企業連携等) (3) 就業斡旋・企業PR活動の推進 2. 経営安定・所得向上対策 [再掲] (1) 農商工連携、6次産業化等の経営多角化の推進 [再掲] (2) 実需に合わせた流通・販売対策 [再掲] (3) 輸出対応の強化 [再掲] (4) 観光資源化の推進 [再掲] (5) ブランド化の推進(ストーリー化) [再掲] (6) 広報・PR活動の強化 [再掲] 3. 生産基盤体制の強化 (1) 主力農畜産物、漆の安定生産体制の構築 (2) 面的な農地利用集積の推進 (3) 計画的な農地基盤整備の推進 (4) 機械・施設の共同利用等低コスト化の推進 (5) 工業集積および誘致企業の連携促進	・起業・新規就農実践サポート: 商工会、職業訓練協会、JA、森組、漆組、県関係機関 ・各種助成やアドバイザー派遣等 中小企業団体中央会、産業振興センター、農業公社 ・教育サポート、共同プロジェクト展開 大学(県内外) ・資金・融資支援 金融機関等 ・ビジネス化サポート: 観光協会、商工会、旅行運輸事業者、食品関連企業 団体、小売・流通企業、中小企業団体中央会、産業振興センター、農業公社 ・資金・融資支援 金融機関等	○新規起業件数(多角化事業部門創設も含む) ○件 ○新規就農者数 ○人/年 ○新規就農定着率 ○%(※5年後の定着率) ○新規就農認定者数 ○人/年 ○経営革新計画等事業計画認定件数 ○件 ○市内新規採用者数 ○人/年 ○うち、市内出身者数 ○人/年 ○農商工連携、6次産業化総合化計画認定件数 ○件 ○輸出品目数 品 ○ブランド特産品() の販売額 百万円 ○観光客数 人/年 ○宿泊観光客数 人/年 ○プランに位置づけられた中心経営体の認定農業者割合 100% ○漆掻き職人の人数 人 ○農地利用集積割合 % ○農地基盤整備率 % ○米60kgあたり生産コスト 円/ 60kg ○誘致企業雇用者数 人	○生活環境の整備(①厚生福祉施設、②住宅環		
					IV 産業間の連携推進と都市住民の受入 1. 異業種との交流・情報共有体制の構築 (1) 異業種連携プロジェクトの創設 (2) 既存組織・団体の連携推進 (3) 農商工連携、6次産業化等の経営多角化の推進 [再掲] 2. 都市との交流・定住促進 (1) 受入れの体制の整備(受け皿づくり) (2) 人材育成支援(リーダー育成) (3) 移住・定住支援対策	・連携サポート: 商工会、観光協会、各種協議会等組織団体、JA他 各種生産組合、県関係機関 ・受入れ体制・移住・定住支援 商工会、観光協会、職業訓練協会、農業公社、ふるさと定住財団、県関係機関 ・人材育成支援 商工会、農業公社、県関係機関	○農商工連携、6次産業化総合化計画認定件数 ○件 ○農商工連携取り組み ○件 ○農商工連携関連商品販売額 百万円 ○県外からの新規移住者数 人	○空き家対策、住居対策の意見・提案多数 ○交通対策、交通インフラ整備について意見・提案多数 ○婚活、子育て支援への意見・提案多数		

No.	担当課	対象団体	開催日時・場所	参加人数	目指すべき将来像	将来像を実現するための取り組み (具体的な取り組み項目)	実現に向けた役割分担 (行政、地域、団体、企業がどのように関わりながら進めるのか)	目標とする指標・数値	その他	特記事項
22	建設課	二戸市建友会	6月29日(月) 岩手県建設業協会 二戸支部会館	6名	インフラ整備による産業の振興 ・インフラ整備によるビジネスチャンスの拡大 ・老朽化する施設への対応	・インフラ整備の推進 (二戸市はインフラ整備が遅れてきたことから、産業が他地域へ流出してきたと考えられる。今後は他の地域に先んじて整備することによって民間のビジネスチャンスを促していく。) ・工法の検討 (橋梁、トンネルなどの維持、補修、長寿命化をする際に工法を地元業者が施工しやすいものにできないか。)	・企業進出等に有利なインフラ整備の推進 → 市 ・工法の検討・技術の習得 → 市・企業 (技術者が少ないので、市と業者の連携を図ってきたい)	具体的な設定が困難	・土木・建築技術者の教育機関がない、小規模でも地元であれば就職率も上がるのではないかと。 ・高度なものでも必ず人がやらなければならないのが建設業であり、男子型企業である。	建友会は道路清掃(草刈)やカーブミラー清掃などのボランティア活動、個々の事業者は各地域イベントの手伝いなどに参加し地域の一員として積極的に活動しており、今後も継続していくとしている。 ・人口減少が進む中、行政効率化の一つとして小中学校の統合が予測され、遠距離からのバス通学が必要になる。現在の学校周辺は道路が狭くバスが通れないことから、通学路の歩道整備と道路拡張が必要ではないか。
					産業の振興と人口減少対策 ・産業としての建設業 ・公共工事の安定	・建設業の振興による農家所得の向上 (農業を主とした地域だが建設業で働く兼業農家が多いことから、建設業を支援することが農家の収入増を助け地域産業を押し上げる効果となる。) ・公共工事の安定 (職場の確保、特に子育て世代の男性が働ける職場の確保は最重要の課題と考える。公共工事を安定させ将来にも働いていける事業を確保していく。)	・地元建設企業を優先して育成 → 市 ・公共工事の安定的な発注 → 市	具体的な設定が困難	・農業、教育、防災など多分野にわたる“産業としての建設業”の重要性を認識・共有してほしい。 ・人口減少が進む中、行政効率化の一つとして小中学校の統合が予測され、遠距離からのバス通学が必要になる。現在の学校周辺は道路が狭くバスが通れないことから、通学路の歩道整備と道路拡張が必要ではないか。	
					災害に強いまちづくり ・企業等の誘致の取り組み ・除雪対策	・災害に強いまち (二戸市は天災は比較的少ない地域であり、危険箇所を未然に防いで、その強みを更に強化することで、安全、安心を求める企業、行政機関などに売り込む際の大きなセールスポイントにできる。) ・除雪対策 (建設業者の縮小傾向の中、除雪委託の受け手が少なくなっており、除雪の行き届かない地域の市民用に中心市街地に市営住宅を設置し冬期間の移住の検討をしてはどうか。)	・危険箇所のパトロールの強化 → 市・企業 (土砂災害パトロールなどで技術者の連携・補完ができるのではないかと。) ・住宅の確保 → 市	具体的な設定が困難		
23	都市計画課	二戸地区建築業組合	7月1日(水) 二戸地域職業訓練センター	4名	①空家と特定空家の対応策 ・高断熱・長寿命住宅への転換(ゼロエネルギー住宅等) ・再利用可能な数少ない優良空家の有効活用 ・特定空家は解体	・S56年建築基準法改正前の建物は基礎強度も不十分であり、高機能住宅化にはリフォームより建替が経済的。 (解体工事費への補助等、建替への誘導) ・基準法改正で省エネ基準が2020年から義務化(低炭素社会対応) ・基準法改正が定着後に建築された優良空家はリフォーム等有効活用。 ・移住には、有利な住宅提供と安定雇用。 (安価な土地・建物の提供と、企業誘致や雇用の提供が一番必要)	・自治体助成の検討 → 市・建築士会・建築業組合 他	具体的な設定が困難。	・20~30年前やそれ以前の建物は柱以外は使えない状況が多くリフォーム費が建替えくらいかかる。空家問題で全国的に補助制度も検討しており、愛媛では解体費分の一定額補助を行っている。 ・年寄りにお金を掛過ぎ。若者にもっと補助すべき。旭川の隣町では町で造成し、坪2万円程度での土地提供や、子供1人に100万円程度で10年間補助等を行い、雇用も旭川市が隣接しており確保しやすい。(二戸市は隣接都市にも雇用が少ない)	・二戸市を何とかしたいという思いが感じられた。 ・市と建築業組合との今回のような意見交換会は有意義であり、今後も年に1回とか作ってほしい。(みなさん多忙のため、19名中4名の参加となった。) ・(その他の意見) ・「リフォーム補助金」は発注者・工務店・商店街の3者が良い事業。3年目で効果が見え始めたと思った時に終了した。少額ながら大きな効果があるので、今後もエコポイント等も含みで行って欲しい。設備業者にも対象拡大しては。
					②将来の街並み ・観光に繋がる魅力のある街並みづくり ・駅東口の整備	・人を呼ぶ地区計画や街並み協定 (九戸城周辺、浄法寺の通り) ・県道二戸一戸線の街路事業の継続 (殆どが建替。エコポイント等の補助を) ・二戸市の顔として整備 (地元商店街・市他の協力)	・必要な地区の街並み協定 → 市・県・建築士会・建築業組合 他	具体的な設定が困難。	・荷渡地区の一部でもルールがあったが、最終的には荷渡地区全体のは統一されなかった。 ・九戸城周辺で街並みのルールが必要。 (観光) ・天台寺周辺の街並みのルールが必要。 (観光)	
					③その他 ・解体時の産廃受入先の確保 【観光の提案として】 ・金田一温泉の活用 ・九戸城址の活用(城建築、周辺解放)	・H28年2月で岩手クリーンセンターが終了。 (現在タイルの受入先なし。安定した受入先の検討) ・魅力のある金田一温泉 (プールに屋根、陸上競技場、野球場を整備し、温泉も活用して合宿等受入) ・一般の人が楽しめる九戸城 (歴史を逸脱しない範囲の城建築。遺跡に影響しない範囲で飲食施設等)	・産廃先の確認 → 市・県・建築業組合 ・金田一温泉、九戸城址の活用検討 → 市・商工会・温泉組合・住民	具体的な設定が困難。	・岩手クリーンセンターがH28年2月で終了となる。解体時のタイルの産廃受入先がない。今後の受入先を確保してほしい。	

No.	担当課	対象団体	開催日時・場所	参加人数	目指すべき将来像	将来像を実現するための取り組み (具体的な取り組み項目)	実現に向けた役割分担 (行政、地域、団体、企業がどのように関わりながら進めるのか)	目標とする指標・数値	その他	特記事項
24	都市計画課	岩手県建築士会 二戸支部	6月23日(火) 二戸地域職業訓練 センター	6名	①空家と特定空家の対応策 ・ゼロエネルギー住宅への転換 ・空家バンクやI・Uターン受入による空家活用 ・特定空家の減少	・空家の他、全ての住宅等の高断熱、長寿命化(新築・改築・リフォームの二戸市型) (築50～80年の空家でもリフォーム等で価値ある物件となる) ・空家バンク検討(県内6市町で実施中) (空家の調査→売却、貸し家データを市内外へネット情報発信→二戸市に土地や中古住宅を探す人→マッチング) (人口は減だが核家族化等により戸数は増) ・空家対策等の検討(条例等)	・二戸市型住宅 → 市・建築士会・特定行政庁 ・空家バンク、売買・貸借情報 → 市・建築士会・不動産業者 他 ・空家対策の検討 → 市・建築士会 他	具体的な設定が困難。	・建築士会ではゼロエネルギー住宅は2～3年前に研究が始まり、30年後を目指すには最適。 ・建築士に中古住宅や宅地の相談があるが、建物土地の情報が無い。 条件=就職先。歩いて生活可能な所。 (千葉の人で貸店舗を探している人等もいる) (3千万円で改築して住んでも良い人もいる) (老人、年金生活者なら就職先は不要) ・二戸市はネット社会の利活用が下手。「漆」で検索しても浄法寺が出てこない。有効利用すべき。	・みなさんが、二戸市の存続について危機感を感じている。このままでは商店街だけでなく全てダメになる。何とかしたい思いが感じられた。 ・市と建築士会との今回のような意見交換会は初めてである。この様な機会は有意義であり、今後も有っても良い。(みなさん多忙のため、12名中6名の参加となった。) (その他の意見) ・「リフォーム補助金」は大変効果があった。少額ながら大きな効果があるので、今後も行なって欲しい。(市)具体的な要望や効果を数値にまとめて欲しい。
					②将来の街並み ・魅力ある倉・旧家等の活用された街並み ・無理のない統一性のある美しい街並み形成	・倉や旧家の実態調査 (以前建築士会で調査実績あり) ・倉や旧家のワンポイント活用した街並み (木造は腐らなければ、リフォーム可能) ・街路事業等に合せた賛同者参加型のソフトな街並み協定の誘導 (事業ヶ所へ着工する前に誘導) (壁塀の色形、樹木、看板程度の低コストで効果のある協定)	・倉や旧家等の実態調査 → 市・建築士会 他 ・倉や旧家のワンポイント活用 → 市・建築士会・建築業組合 他 ・ソフトな街並み協定 → 市・県・建築士会 他	具体的な設定が困難。		
					③その他 ・二戸市型住宅の普及(ゼロエネ住宅) 【提案として】 ・金田一温泉を「日本一老人の住み良いまち」大プロジェクト=他とは逆の発想	・二戸市型住宅のトータルコストや健康面のメリット等の住民への周知や知識の浸透。 (北海道型基準同等かそれ以上に快適な二戸市型住宅の基準を定め、新築・改築後の性能実績を情報発信) ・二戸市型住宅の自治体助成の検討 (高性能、長寿命住宅の普及による空家減少。健康面での成人病死亡率の減少と医療費減。次世代継承型住宅が増える事による新たな歴史や魅力のある街並み形成。他自治体に先駆けて二戸市で助成するインバウト。) 【提案として】 ・「金田一温泉老人のまち」の検討→プロジェクトチーム結成(民間・市・住民等+首都圏)	・二戸市型住宅(コスト・健康メリットの周知) → 市・建築士会・不動産・県 ・自治体助成の検討 → 市・建築士会・建築業組合 他 ・「金田一温泉老人のまち」の検討 → 市(十温泉組合+住民) (福祉関係が大きく関係)	具体的な設定が困難。		

No.	担当課	対象団体	開催日時・場所	参加人数	目指すべき将来像	将来像を実現するための取り組み (具体的な取り組み項目)	実現に向けた役割分担 (行政、地域、団体、企業がどのように関わりながら進めるのか)	目標とする指標・数値	その他	特記事項
25	うるし振興室	浄法寺漆関係	7月2日(木) 総合支所3階大会議室	9人	国産漆の産業が集積されています	<p>【漆】 原木</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウルシ苗木の確保 ・ウルシ原木の確保 <p>人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漆掻き職人の育成 ・漆掻き道具の確保 ・漆樽の確保 <p>ブランド力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漆の流通の透明化 ・漆の付加価値化 ・漆生産組合の機能確保 <p>【漆器】 木地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木地の確保 <p>人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塗師の育成 ・木地師の育成 <p>ブランド力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漆器の流通 <p>地域での普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売路開拓 ・全国での販路開拓 ・海外での販路開拓 	<p>【漆】 原木</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優良種苗の選別(漆掻き職人) ・苗木栽培技術の向上(漆掻き職人) ・原木管理システムの構築(市) ・荒廃林の解消(原木所有者、生産組合) <p>人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漆芸科のある全国の大学等との連携(市) ・女性、リタイヤ世代の就業 ・地域協力隊の活用(市) ・うるし掻き技術保存会の研修(保存会) ・用具(道具、樽)製作技術の伝承(保存会) <p>ブランド力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認証制度の周知、普及(市) ・文化財修復現場での資材検査の徹底(国) ・浄法寺漆の地域商標登録(組合) ・精製業の起業(組合)、誘致(市) ・組合の法人化、森林組合との連携(組合) <p>【漆器】 木地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・針葉樹の活用調査(市) ・木地の森(市、企業、塗師) <p>人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漆芸科のある全国の大学等との連携(市) ・空き家活用:住居兼工房(市) ・貸工房の設置(市) ・高校跡地での学校開設 ・木地師:木地の需要拡大 <p>ブランド力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浄法寺漆100%の漆器 <p>地域での普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食への漆器の導入 ・家庭での普及:自作着・靴への漆塗装 ・店舗等の使用に合わせた漆器の製作 <p>販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間切れ 	<p>漆生産量 1トン(5千万円)→2.2トン(1億円)</p> <p>職人数 20人→40人</p> <p>漆器生産額 4千万円→1億円</p> <p>職人数 10人→20人</p>	最後に「人に投資」が一番重要 投資は、まっさらな状態(人)に投資 それぞれが、点ではなく、線に、更に面にすること	
					浄法寺漆を中心とした日本の漆文化が、世界文化遺産に登録されています	<p>【漆文化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漆文化の継承、技術の継承 ・ふるさと文化財の森 ・日本遺産への登録 	時間切れ			
26	総合支所市民課	地域安全推進員・めんこいキッズ	6月26日(金) 浄法寺総合支所会議室	5名	①地域の活性と暮らしの安全	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会、民生委員、老人クラブ等が中心となり、定期的に巡回し、見守る。 ・一人暮らしや高齢者世帯を市営住宅へ移住を推進する。 ・学校や子供会と連携して世代間交流を行い、子どもと地域住民のお互いの顔が見える状況をつくる。 ・空き家を古民家にリフォームし、移住者の促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浄法寺地区見守り隊 情報収集・提供⇒市 巡回・連絡⇒社会福祉協議会、民生委員 ・世代間交流事業 実施⇒地域、社会福祉協議会 ・空き家対策 調査⇒市 事業実施⇒地域、建築業者 老人クラブ他 ・移住促進 取りまとめ⇒市 相談⇒市、社会福祉協議会、民生委員 	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り隊の巡回体制強化 各団体が連携し、週1回の巡回 ・市営住宅への移住促進 一人暮らしや高齢者世帯団地を設置 1団地⇒10世帯から20世帯程度 ・世代間交流事業の実施 現在かだつて会のみ⇒今後2団体追加 ・空き家の減少と古民家へのリフォーム 各集落1軒以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者がいないため、高齢者が居なくなると空き家状態となっている ・定年後でも故郷に帰ってきて、親の面倒をみてほしい ・職場が少なく、働き口がない。 ・今ある産業の掘り起しと拡充を図る。 ・集落に人が少なくなれば、除雪などサービス低下が感じられる 	
					②子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・職場の理解と家族の応援。 ・育児休暇など休みが取りやすい支援体制の確立。 ・地域が子供たちの活動を支える組織体制の構築。 ・医療費の即時支給。 ・小学生以下の医療費無料化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業等への普及推進 普及・情報提供⇒市 育児休暇⇒企業・従業員 子育て支援⇒家族・地域 ・組織体制の構築 組織の設立⇒地域、市 組織運営⇒地域、育成母体 ・医療費の助成 予算確保⇒市 予防⇒家庭 	<ul style="list-style-type: none"> ・育児休暇の取得 職場環境の改善 ・支援組織の設立 5年以内 ・医療費の助成 現物給付(窓口支払いをなくする) ・医療費の無料化 現在乳幼児⇒今後小学生以下 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園に入れたくても、規制が厳しく子供を預けずらい ・1日など短期的に子供を預けられる施設があればよい ・浄法寺地区に認定こども園がほしい ・医療費還付が2～3ヵ月後なので厳しい 	

No.	担当課	対象団体	開催日時・場所	参加人数	目指すべき将来像	将来像を実現するための取り組み (具体的な取り組み項目)	実現に向けた役割分担 (行政、地域、団体、企業がどのように関わりながら進めるのか)	目標とする指標・数値	その他	特記事項	
27	文化財課 地域振興課	九戸城を活かす会、九戸城ボランティアガイドの会	6月24日(水) 埋蔵文化財センター	7名	市民の憩いの場としてや観光客でにぎわう九戸城	・史跡内の清掃、美化活動 ・市外の人向けの親切な動線設定、整備および表示	市：サイン整備および動線整備 町内会：清掃活動 団体：年間を通じたイベントの開催	・エントランス広場の整備 ・アクセス道路の整備 ・サインおよび説明版の設置 ・交流人口の増加(ガイド案内)3,000人 ・九戸城跡地を活用したイベント開催 2回	・地域のネットワークの構築		
28	生涯学習課 文化財課	二戸市地域婦人団体協議会、二戸市芸術文化協会、浄法寺町芸術協会、一般社団法人 二戸市体育協会、二戸市スポーツ少年団本部、二戸市体力づくり振興会、浄法寺スポーツクラブ、二戸市郷土芸能保存団体連絡協議会	6月29日(月) 市役所1階会議室	11名	①子どもたちの将来の選択肢の充実 ・進学、就職先等の受け皿	・大学を誘致する。高校では更に上の教育機関に行ってしまうため。 ・二戸に少ないと言われている男性型企業を中心とした企業の誘致に力を入れる。				・働く場所があれば子どもも残ってくれると思う。	事前にppt資料を配付するなどしていたものの、「考える内容が漠然としすぎて何をどう話せばよいか分からない」という方も少なくなく、上記項目に沿って聞き取りを行うことは難しかった。
					②活動の担い手確保 ・子どもたちが地域に残るような取り組み ・定年を迎えた層の参加促進	・子どもたちが芸術文化に触れる機会を充実させる(合唱団と合唱をしたり、カルタやお茶、お花をやったり。また、空き店舗を活用しアートギャラリーとして展示するなどしては)。 ・郷土芸能の活動については、定期的に1団体ずつ順番に発表する場を設けるなどすれば、活動をする方も張り合いが出る(学校の文化祭で発表する例がある)。 ・一線を退いた方にも気軽に参加してもらえるような道筋をつける(サークルのような感覚で)。 ・学校主導で地域の郷土芸能に子どもに参加してもらい、各団体に教えるなど、郷土芸能に触れる機会を。体に染みつけたものは地域をいったん離れても忘れない。 ・若い世代の意見も幅広く聞きながら進めていく。 ・若い世代に責任を持たせつつ活動を引き継いでいくよう仕向ける。若い世代は「自分たちがやっていかなければ」という当事者意識が低いように感じるため。			・花巻市の東和でまちかどアートギャラリーをやっている、面白い取り組みだと思った。 ・若い人も増やしたいがどうしたらいいか思いつかない。若い人は仲のいい人とか繋がりにくいよう。 ・スポーツクラブについて、市福祉部局でやっている軽運動教室と内容が重なるので棲み分けが必要と考えている。会員がどんなスポーツをやりたいか、どうすれば楽しんでもできるかを探しながらやっている。 ・深山神楽、石切所小3年生に教えて12年になる。その中から毎年何人か神社にも来ている。この取り組みを継続すれば、30年先までつながるとは思う。 ・市内の郷土芸能団体は市指定のみである。県指定・国指定を受けることにより経費が増えることもあるようだが、意欲が高まる面もあると思う。		
					③二戸に残りたい、二戸に行きたいと思えるような場所へ	・けんじワールドのようなレジャー施設など、街が活性化するような場所があれば。			・若者にとっては、二戸にいても娯楽が少なく面白くない。		
					④年をとっても一人一人が元気で健康に暮らせるまち	・若いうちから運動に親しめる環境を作る。 ・運動できる喜び、運動の楽しさを伝えていく。 ・施設を充実させる。設備が整うことで、進んで運動やスポーツにも取り組むようになるのでは。					
					⑤二戸から世界に羽ばたくアスリートの育成	・クラブチーム(ユースチーム)を二戸で結成する。上のステージで活躍できるようになれば、競技全体のレベル向上も見込める。 ・一流大学の講師や監督を呼ぶなどして、スポーツ指導者の育成を図る。良い指導者に巡り合えれば子どもたちも将来指導者の道を志すようになるのでは。 ・子どものスポーツにかかる経費負担の軽減を図る。お金がかかりすぎるために、やりたいスポーツができない子もいるのではないかと。支援する組織であったり手助けできる仕組みを。					
					⑥下地を活かしたまちづくり ・剣道、柔道、野球、カーリング、バレーなど ・「〇〇のまち への」をたくさん作ってもいいのでは	・市や関係団体だけでなく市内の企業や団体にもっと頼ったまちづくりを。 ・管内の繋がりを高める。管内でも「〇〇町は△△の施設が充実」などあると思う。そこに無料バスを出すなどお互い利用率を高められれば。特に二戸は新幹線停車駅であるので。 ・スポーツに関しては人材、指導者、施設の確保が何より重要。 ・市の情報提供力を上げる。					
									・市は規定外のことには非協力的。みんなが一緒になってやっていくにはそれなりのお金が必要なので、団体からのお願いにも本気で考えてほしい。		
									・人を集めて何かやるとなると資本が必要。企業なりの力を借りなければいけないが、企業を呼び込むだけの魅力が必要となる。その魅力を見つけていくのも行政では。		